

トルコ北西部大地震の遺児たちが兵庫県を訪問 (ひょうごトルコ友愛基金事業)

平成11年のトルコ北西部大地震の際に、兵庫県民からの多くの義援金をもとに設立された「ひょうごトルコ友愛基金」では、震災遺児の育英資金として奨学金を支給する一方、2年に1回その子どもたちを兵庫に招いています。

この夏7月23日～7月30日に13～14歳の男女4人が、県内各地の中学校・高校を訪問し、同世代との友情を育み、県内外の視察を通じて兵庫県・日本への見聞を深めました。

舞子高校での交流

県立舞子高等学校ではトルコの学校生活紹介の後、同校防災環境科によるプレゼンテーションが行われ、その後班に分かれて互いの国の文化や災害についてのワークショップが行われました。



舞子高生と初対面

三原高校での交流

県立淡路三原高等学校では、同校生徒たちによる淡路人形浄瑠璃が上演され、使用した人形や三味線などの楽器に触れる機会も設けられました。トルコ側からは伝統舞踊についてパワーポイントによる紹介があり、皆の手拍子に乗りながらその場で伝統ダンスを披露しました。



三木市立自由が丘中学校での交流

三木市立自由が丘中学校では、吹奏楽部による迫力ある演奏で歓迎を受けた後、トルコ側からトルコの文化事情（地理、名所、料理）について発表がありました。また、生徒会メンバーと折り紙やこままわしなど、日本の伝統文化体験交流が行われました。



さらに訪問団は「人と防災未来センター」や「兵庫県広域防災センター」で防災について学習し、姫路や京都訪問で日本の文化に触れることができました。

遺児たちは、「暑い時期で最初は時差ボケもありましたが、日本のみなさんはいつも笑顔で親切でした。」「どこも発展している。」「色々教えてもらい楽しかったです。また、どこかでお会いしたいです。」と日本の印象を述べていました。



明石海峡大橋にて